

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型ステーション望紫波		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 13日		2026年 1月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2026年 1月 13日		2026年 1月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	少人数支援	<ul style="list-style-type: none"> 職員とマンツーマンでの個別支援に取り組んでいる。 職員と利用児、全員が一緒に参加する全員参加型支援を行っている。 トイレトレーニングやお箸トレーニング等、個々の発達段階に合わせた支援がマンツーマンで可能(基本的生活習慣の確立)。 	工夫していることや取り組んでいることを継続して行っていく。
2	医ケア・重心の受入	<ul style="list-style-type: none"> 全床バリアフリー。移動が楽。 移動がスムーズに出来るよう整理整頓された広い空間にしている。 多目的トイレを設置している。 看護師が常駐している。 医ケアを行うため専用の「静養室」を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 医ケア児・重心と発達障がい児が同一室内で過ごす場合の安全対策。 看護職員以外の職員の医ケアに対する知識の向上(研修受講等)
3	発達障がい児にとっては、穏やかに過ごせて良い <ul style="list-style-type: none"> 玩具等の取り合いがないため、精神的安定に繋がる。 やりたいことが出来るため、精神的安定に繋がる。 ぐっすり眠ることが出来る。 自分のペースで食事ができる など 	<ul style="list-style-type: none"> 自主性や主体性を大事にした支援をしている。 貸し借り、「みんなで一緒に」、順番、我慢等が出来るようになるような職員との関わりを通じた支援。 主体をこどもにおきながらも遊びのルールや生活のルールを教えるようにしている。 	工夫していることや取り組んでいることを継続して行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	戸外活動スペースがない、戸外遊具がない。	既存の建物のため、開所当初からなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 移動上の安全や時間を考慮すると、現在の車両駐車場が活動場所として最適である。 建物前を活動スペースにするために、車両の駐車位置を検討する。近隣に駐車出来る場所を確保する。 既存駐車場を戸外活動スペースに設ける場合は、フェイスを設置する。
2	立地的に主要道路に面し、戸外から室内の様子が見えやすく、防犯上問題である。	室内から道路を走る車両が見えることは、子どもたちの興味関心を引き出す上では良いことだが、その反面、戸外からも見えるということである。 室内の構造がどのようになっているのか、利用児の年齢層や人数、職員の男女比と年齢等が戸外から見え、犯罪を誘発してしまう恐れがある。	<ul style="list-style-type: none"> ロールカーテンを下までの長さにする。玄関前にもカーテンやロールカーテンを付ける。 防犯カメラを設置する。
3	医ケア児と重心にとっては同年齢との関わりが少ないこと <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション不足 「取った・取られた」「貸して・貸さない」等、お友達とのやり取りから生まれる葛藤や忍耐や思いやりが育ちにくい 影響を受け合いながら、相互作用で成長しづらい など 	既にこども園や児童発達支援を利用しており、新規利用の契約に繋がらない	<ul style="list-style-type: none"> 当所にしかない特色を探り、アピールすることで利用児数を増やしていく。 地域のこども園等と交流を図っていく。